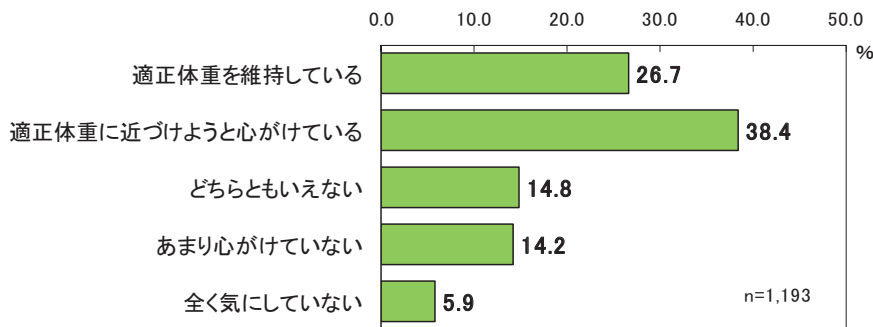


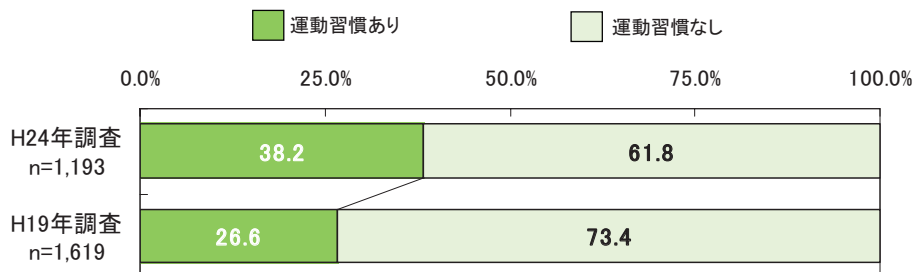
熊本市国民健康保険から

■あなたは自分の適正体重を認識し、体重コントロールを心がけていますか。-15歳以上-



平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

■運動習慣の有無について -15歳以上-



※15歳以上の回答者で、1日30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している人の割合
 ※誤差率5%の水準(95%の信頼度)で有意差があると認められる (H19年→H24年)

平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

5 食に関わる環境の現状

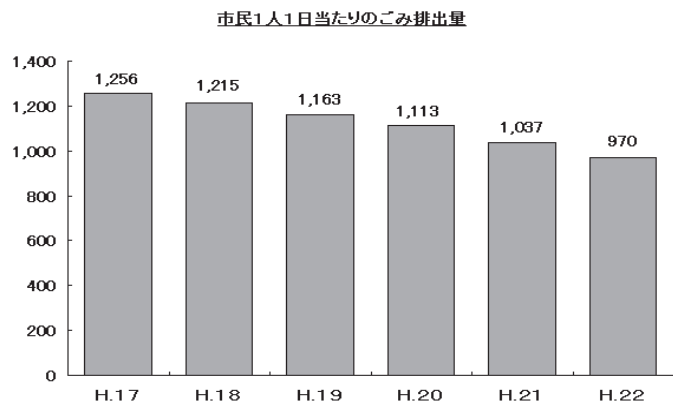
(1) ゴミ排出量の状況

地球温暖化や天然資源の枯渇などの地球規模の環境問題が深刻化する中、その一因である大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会構造を見直し、ごみの量を可能な限り減らし、リサイクルできるものはできるだけリサイクルする持続可能な循環型社会への構造転換を図ることが求められています。

本市におけるごみの排出量は、現在のところ家庭ごみ、事業ごみともに減少傾向にありますが、市民1人1日当たりのごみ排出量で見ると、H22、970gとなっており、全国平均976gを下回ったものの、熊本県平均836g(いずれも22年度実績:環境省一般廃棄物処理事業実態調査より引用)よりは依然として高い水準で推移しており、さらなるごみの減量が必要です。市民・事業者のごみに対する意識のさらなる向上を図りながら、市民・事業者の消費行動や事業活動における、ごみの発生抑制に向けた実践活動を拡大していく必要があります。また、市民・事業者意識の向上を図りながら、リサイクルできるものは可能な限りリサイクルを進め

ていくため、さらなる分別の徹底などの実践活動の拡大に向けた取組を推進していくことが必要です。

なお、H22年度のごみ処理のコストは市民一人当たり、約11,000円の費用が必要となっています。

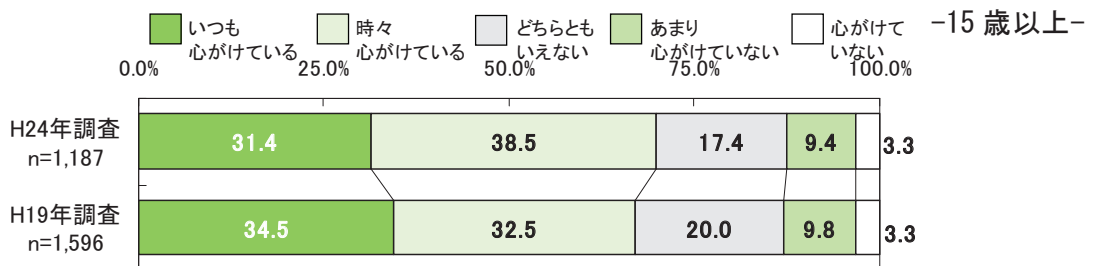


資料: 廃棄物計画課

(2) 食料廃棄に対する意識

本市において、ごみを少なくするための心がけを「いつも心がけている」市民は、31.4%、「ときどき心がけている」は、38.5%となっています。

■ごみを少なくするための「作りすぎ」や「買いすぎ」をしないような心がけの有無

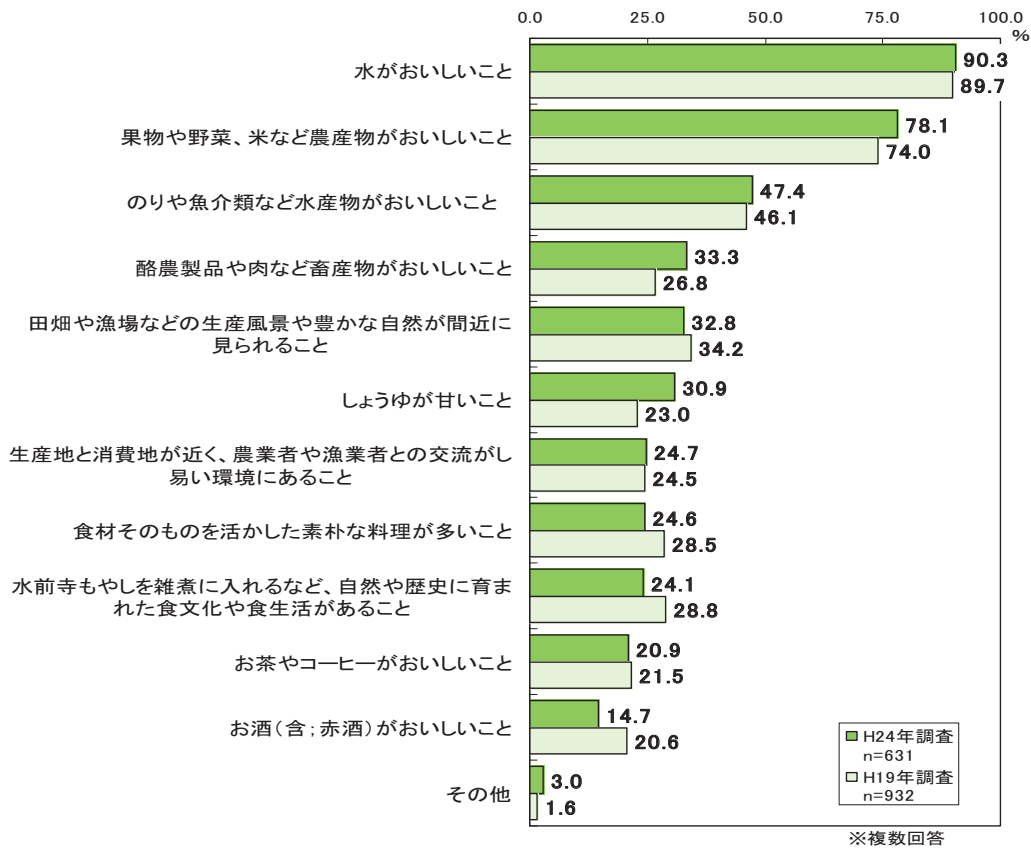


平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

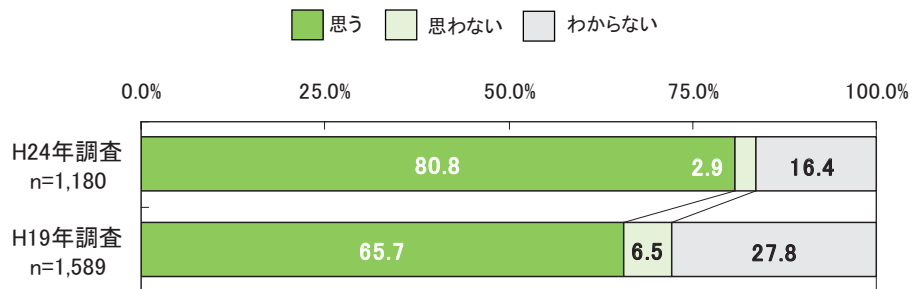
(3)「くまもとの水」に関する意識

本市では、飲料水を100%地下水でまかっています。市民が、食生活面で「くまもとしさ」を感じている市民は、52.9%となっており、その内容として90.3%の市民が「水がおいしいこと」をあげています。「良質な地下水が食材や料理のおいしさの基になっている」と思う市民の割合は、80.8%となっています。

■「くまもとしさ」を感じること -15歳以上-



■熊本市の良質な地下水が地元の食材や料理の「おいしさ」の基になっていることについて -15歳以上-



平成24年「熊本市食の安全安心・食育に関するアンケート調査結果」から

「食の安全安心に関する指標(第1次) 成果指標の現状

・ 食の安全性・安心感に関する指標

項目	H19 (直近年)	H22 (中間)	H24年 アンケート	目標	H19→H24
① 「残留農薬」について不安を感じる市民の割合	63.0%	63.7%	55.7%	50.0%	+
② 「食品添加物」について不安を感じる市民の割合	76.0%	69.6%	63.3%	65.0%	達成
③ 「食品の不正(偽装)表示」について不安を感じる市民の割合	52.5%	62.8%	51.6%	40.0%	+
④ 「輸入食品」について不安を感じる市民の割合	68.7%	68.4%	65.2%	55.0%	+
⑦ 食品の安全性について不安を感じる市民の割合	77.2%	78.0%	70.0%	65.0%	+

・ 市民の意識行動に関する指標

項目	H19 (直近年)	H22 (中間)	H24年 アンケート	目標	H19→H24
⑤ 食品の安全性や食品衛生に関する活動に参加している市民の割合	9.6%	11.0%	8.9%	15.0%	-
⑥ 食品を購入するたびに表示を確認している市民の割合	46.7%	36.2%	40.2%	55.0%	-
⑧ 食事・食品等に関する知識や情報を公的機関から得ている市民の割合	5.8%	6.2%	5.4%	10.0%	-
⑨ 食品の安全性に関する知識があると思う市民の割合	49.7%	52.7%	49.6%	60.0%	0
食品の安全性や食品衛生活動に参加したことがある市民の割合	9.6%	11.0%	8.9%	15.0%	-

「食育に関する指標(第1次)」 成果指標の現状

		H19(計画策定時)	直近値	目標			
I 「市民自らが育む食」への理解と健全な食生活の実践	① 食事のとき「楽しい」と感じる市民の割合	73.7%	78.1%	80%	+		
	② 1週間あたりの朝食の欠食率	小学5年生	1.2%	0.9	0%		
		中学2年生	2.9%	2.0	0%		
		20歳代男性	30.5%	29.4	15%	+	
		30歳代男性	21.9%	29.4	15%	-	
	③ 食育に関する活動や行動をしている市民の割合	男性	21.2%	18.2%	25%	-	
		女性	35.0%	32.2%	45%	-	
	④ 「内臓脂肪症候群」を認知している市民の割合	20歳以上	76.6%	81.9%	85.0%	+	
	⑤ 肥満度20%以上の児童の割合	小学生	7.5%	6.8%	7.0%		
中学生		9.1%	7.7%	7.5%			
⑥ 保育所における食育に関する計画の策定割合	公立	40%	※ 100%	100%	+		
	私立	16.7%	91%	100%			
⑦ 幼稚園における食育に関する計画の策定割合	公立	0%	100%	100%	達成		
	私立		80%	80%			
⑧ 小・中学校における食育に関する計画の策定割合	小学校	100%	100%	100%	達成		
	中学校	100%	100%	100%			
⑨ 親子料理教室等健康づくり活動へ参加したことがある市民の割合		22.6%	19.4%	35%	-		
II 健全な食生活の実践 するための環境整備	⑩ 食事バランスガイドを参考にした食生活を実践する市民の割合	20歳以上	27.1%	29.1%	40%	+	
	⑪ 日本型食生活を実践している市民の割合		81.5%	80.4%	85%	-	
	⑫ 食育に関する活動や行動をしている市民の割合		29.3%	26.0%	40%	-	
	⑬ 食育推進に関するボランティア数		560人	1208人	1,250人	+	
	⑭ 飲食店で栄養成分表示を見たことがある市民の割合		56.3%	54.3%	65%	-	
III 食育と市民の推進	⑮ 食育に関心がある市民の割合	20歳以上	76.0%	73.4%	90%	-	
	⑯ 食生活面で「くまもとらしさ」を感じたことのある市民の割合		58.0%	52.9%	65%	-	
IV くまもとの自然環境と食文化に根ざした食育の推進	⑰ 生産者と消費者が近く交流しやすいと感じている市民の割合		24.5%	24.5%	30%	-	
	⑱ 学校農園や休耕田等を活用した栽培活動を実施している小・中学校の割合	小学校	98%	※100%	100%	達成	
		中学校	54.1%	100%	100%		
	⑲ 「地産地消」を認知している市民の割合		57.9%	69.9%	65%	達成	
	⑳ 学校給食における地元産物を使用する割合		28品目	39品目	43品目	+	
	㉑ 家庭での食事に郷土料理等を取り入れている市民の割合		63.9%	49.2%	70%	-	
	㉒ 市民1人1日当たりのごみ排出量		1,215g	※ 976g	956g	+	
	㉓ ごみを少なくするため「買いすぎ」「作りすぎ」をしないよう心がけている市民の割合		67.0%	69.9%	75%	+	
	㉔ バイオマスを知っている市民の割合		23.0%	34.4%	30%	達成	
㉕ 熊本市の良質な水がおいしさの基になっていると思う市民の割合		65.7%	80.8%	85.0%	+		

※H23年度実績